

## 背景

黙示録の著者は使徒ヨハネです。黙示録の中で、彼自身が著者であることが4度記されています。  
(1:1,4,9、22:8)

使徒ヨハネはヨハネの福音書およびヨハネの手紙第一、第二、第三の著者でもあります。

ヨハネは、イエスと非常に親しい交わりがあり、「イエスが愛しておられた者」と表現されています。  
(ヨハネ自身、5度にわたって自分自身のことをこのように記しています。)

ヨハネは、紀元70年ごろにエペソでの牧会を引き継ぎました。エペソでの牧会には、周辺地域の教会の牧会も含まれていました。黙示録には7つの教会が登場します。これらの教会は、当時実在した教会です。

当時、クリスチャンに対する迫害が、現在のイスラム教の国で起こっているのと似たかたちで存在しました。

クリスチャンの迫害を始めたのはローマ皇帝ネロですが、後にドミティアヌスが皇帝になると、迫害はさらに激しくなりました。彼は、「冷血な殺人鬼」と呼ばれ、史上最悪の人とされています。このドミティアヌスがヨハネを流刑に処し、パトモス島へ送った人物です。

パトモス島はエーゲ海に浮かぶ南北16km 東西10kmほどの小島です。

そこには、流刑者を鉱山で労働させる収容所がありました。

この隔絶された場所でヨハネは神からの幻を見ました。その幻を書き記したものが「黙示録」と呼ばれる書です。この書は紀元95年ごろに記されました。

## 黙示録の性質

黙示録は、信徒にとっても牧師にとっても非常に難解な書です。また、異なった解釈が存在し、何かと論争の起こりやすい書でもあります。その結果、牧師はこの書を教えることを敬遠し、多くの信徒たちは、この書を最初から最後までとおして学んだことがない状況です。黙示録の解釈は、おもに4つに分類されます。

1. プレテリスト (過去主義的見解) これは、「過去」を意味するラテン語の単語から来ています。黙示録は未来の預言ではなく、ローマ帝国時代の一世紀に起こった歴史の記録であるという見解です。この見解を正当化するのは非常に困難で、とくに16-19章についてそう言えます。
2. 歴史主義的見解 これは、黙示録が新約聖書時代から現代までを描いた歴史の記録であるという見解です。学者は、歴史上実際に起こった出来事をこの書に照らしてどこに当たるかを解明しようと努めてきました。しかし、この見解もまた、黙示録の中にこの書が預言であると記されている事実を無視しています。
3. 象徴主義・観念主義的見解 この見解では、黙示録が預言であるという考えを完全に放棄し、黙示録はイエスとサタン、そして善と悪との間の戦いを象徴的に示すものであると考えます。
4. 未来主義的見解 この見解は、黙示録を預言として捉えます。6-22章は、教会が掲げられたあとに天と地に起こることが記されています。他の聖書の書を理解するのと同じように黙示録の文字や文法、歴史、そして説明をそのまま解釈するのはこの見解だけです。

こういうわけで、私自身は未来主義的見解を取っています。聖書を一貫した書物として捉えるなら、これがもっとも適した解釈だからです。また、聖書がこの書について預言書だと語るなら、私はそのとおり預言の書であるはずだと考えます。

今日は、黙示録についての7つのポイントをご紹介します。正面のスクリーンにそのポイントが表示されます。

1. 黙示録の中心はイエス・キリストにある。

これについては、この書の冒頭でわかります。

#### 黙示録 1 : 1-2

1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。

つまり、イエス・キリストが黙示録の中心にあります。この書は、イエス・キリストがどのようなお方であるかについて、その呼称を用いて教えます。キリストの呼称は 50 以上あります。

しかし、今日は 1 章に登場するいくつかのみをピックアップしましょう。5 節には、イエスが「忠実な証人」、「死者の中から最初によみがえられた方」、「地上の王たちの支配者」と記されています。また 8 節では、「アルファであり、オメガである。」（初めと終わりの意味）、18 節では「生きている者」と記されています。

黙示録の各章でイエスについてどのようなことが記されているのか要約するならば、このようになるでしょう。

- 1 章 イエスはよみがえった祭司なる王である。
- 2-3 章 イエスが教会を吟味なさる。
- 4-5 章 イエスが礼拝と賛美をお受けになる。
- 6-19 章 イエスがこの世を裁き、栄光を帯びて再び来られる。
- 20-22 章 イエスが栄光と御力によって支配される。

つまり、この書はすべてイエスに関する内容です。

#### 2. 黙示録は、旧約聖書のみことばに基づいた書である。

旧約聖書を参照せずにこの書を理解することはできません。

黙示録にはぜんぶで 404 節ありますが、そのうちの 278 節に旧約聖書と関連する内容が含まれています。全体の 75% 近くで旧約聖書の参照が必要となります。

ですから、ヨハネがたびたび触れる旧約聖書の書をしっかり理解する必要があります。その書は、詩篇、ダニエル書、ゼカリヤ書、創世記、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、ヨエル書です。他の聖書と切り離して黙示録を学ぶことはできません。今後も旧約聖書を参照することがあります。

#### 3. 黙示録は預言の書である。

ここで、この書の預言的性質をはっきりとさせるみことばを 3 つお読みします。他にも、19 : 10、22 : 10,18-19 などがあります。

- a) 1 : 3 「この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。…」
- b) 10:11 「そのとき、彼らは私に言った。『あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならない。』」
- c) 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

ここで私たちは、この書の預言のことばを守るなら祝福が約束されています。

#### 4. 黙示録には象徴や数字が含まれている。

黙示録は象徴の書ではありませんが、象徴や数字が含まれています。

この書では、象徴やしるしを使ってメッセージを伝える部分があります。

その内容が説明されている部分もあれば（1 : 20、4 : 5）、説明されていない部分もあります（4 : 4、11 : 3）。また、旧約聖書の関連を指し示すことで説明されている箇所もあります。

そのひとつをここで読みます。

黙示録 2 : 7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べさせよう。」』

いのちの木とは何でしょう。創世記 2 : 9 と 3 : 22 を見てみましょう。

創世記 2:9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。

創世記 3:22 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

この象徴的表現は一世紀のクリスチャンには明らかでしたが、ローマ帝国の迫害者にはまったく意味をなさないものでした。

象徴は現実を物語ることを頭に置いておく必要があります。それは、国旗が国の存在を物語るのと同じです。

象徴と同じく、この書には数字も登場します。7という数字が何度も登場します。7つの教会、7つの封印、7つのラッパ、7つの鉢、7つの燭台などがそうです。

12という数字も何度も登場します。12の星、12の門、12の土台石などです。

#### 5. 黙示録は同情的な書である。

この書では一貫して、神の民の苦しみと、地上にいる神の子らに対する天からのあわれみが見てとれます。

スミルナの教会は投獄を経験します。(2 : 10)

祭壇の下にいるたましいが、神の裁きを求めて叫びます。(6 : 9-10)

大淫婦が聖徒たちの血を飲みます。(17 : 6)

このようなことがある中でも、神はこの世を裁かれ、ご自身の民を救われます。

#### 6. 黙示録は、クライマックスの書である。

黙示録は、聖書のクライマックスであり、神のご計画とみこころの成就を示します。

#### 7. 黙示録は、私たちに祝福してくれる書である。

黙示録 1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

黙示録 22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

イエス・キリストを受け入れ、愛する人は、必ず祝福を受けます。しかし、イエスを受け入れない人には、必ずつらい時代がやってきます。その時代をとおして、もしかすると、イエス・キリストがあなたの救い主であることに気づき、悔い改め、受け入れる確信を得るのかもしれない。